

海の道むなかた館長

第3回 狗邪韓国

西谷 正

I はじめに

『魏志』倭人伝 狗邪韓国

『魏志』弁辰伝 弁辰狗邪国



II 弁辰の国々

弁韓 1 2 国

弁辰弥烏邪馬国・弁辰狗邪国・弁辰安邪国・・・・

辰韓 1 2 国

不斯国・州鮮国・斯盧国・・・・

III 狗邪国の遺跡と遺物

(1) 慶尚南道金海市 会峴里貝塚（鳳凰台遺跡）

(2) 慶尚南道金海市 良洞里遺跡

(3) 慶尚南道金海市 大成洞遺跡

(4) 慶尚南道金海市 府院洞（三政洞）遺跡

(5) 慶尚南道金海市 池内洞遺跡

(6) 慶尚南道義昌郡 茶戸里遺跡

IV 斯盧国の遺跡と遺物

慶尚北道慶州市 朝陽洞遺跡

V おわりに

弁韓の狗邪国と倭（邪馬台国）の末盧国

魏志倭人伝

『三国志』卷三十『魏書』『烏丸鮮韓東夷傳』第三十『倭人條』

宋版（官内庁書陵部蔵）より
水野 祐・早稲田大名誉教授
(現代語訳監修も)

原 文

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國從郡至倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里

①倭人は帶方東南の大海上にあり。山島に依りて國邑をなす。旧百余国。漢の時に朝見する者あり。今使譯通する所三十国なり。

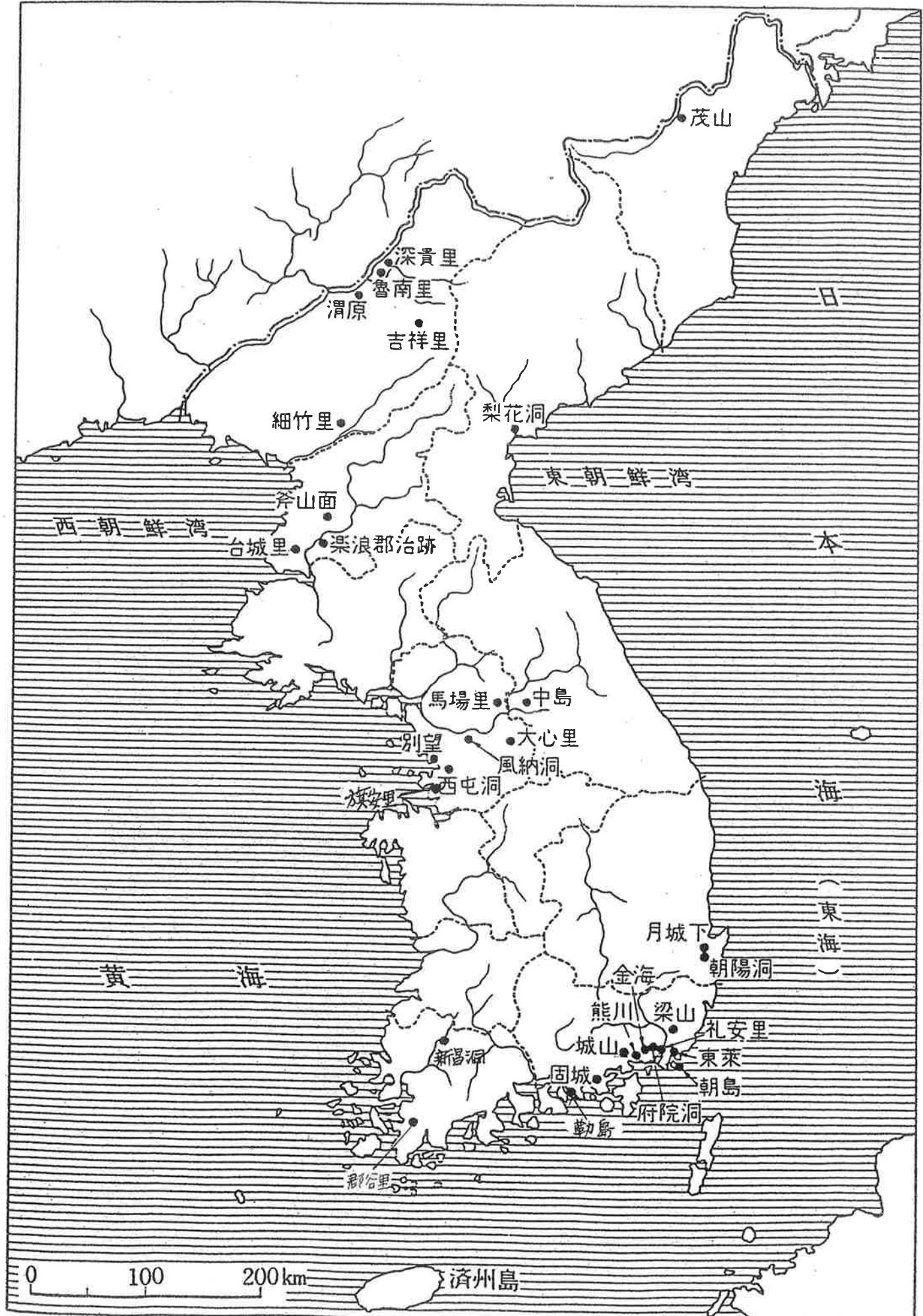
②郡より倭に至るには、海岸に循いて水行し、韓國を歷て、乍く南し、乍く東して、其の北岸、狗邪韓國に到る。七千余里なり。

読み下し



現代語訳

①倭人は帶方郡（現北朝鮮黃海道・韓國京畿道）の東南の大海上にいる。そびえ立つた島にクニを作っている。もとは百余か国あつた。漢の時代に朝貢した者がある。今、通詞を介し朝貢しているのは三十か国である。
女王國への行程と主要な国々
②郡（帶方郡治所）から倭に至るには朝鮮半島沿いの沿岸航法で韓國を経てしばらく南に行き、しばらく東に行き、倭の北岸の狗邪韓國に着く。七千余里（魏の一里は一説に約百九メートル、また約三百九十二メートル、約四百二十メートル説もある。一日二千里の概数とも考えられる）である。

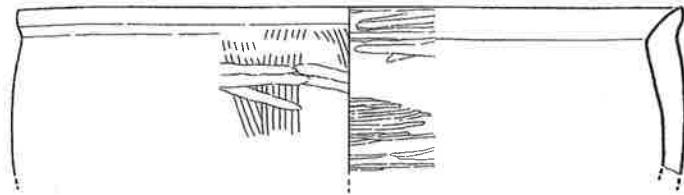


原三国文化主要遺跡分布図

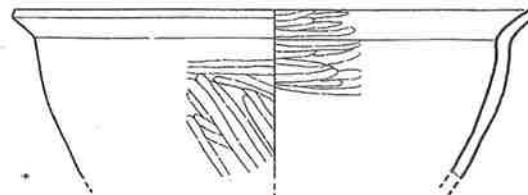


圖面 3. 김해 회현리폐총 및 봉황대의 폐총법위 (1/1,500)

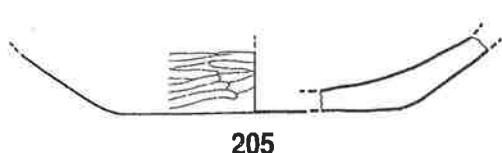
林志暎·宋楨植·千秉年, 2002 金海 会峴里貝塚－軒寫를 위한 試掘調査報告書
釜山大學校 人文大學 考古學系 嘉術叢書 第1輯



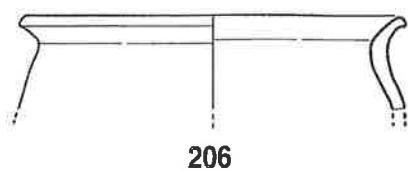
203



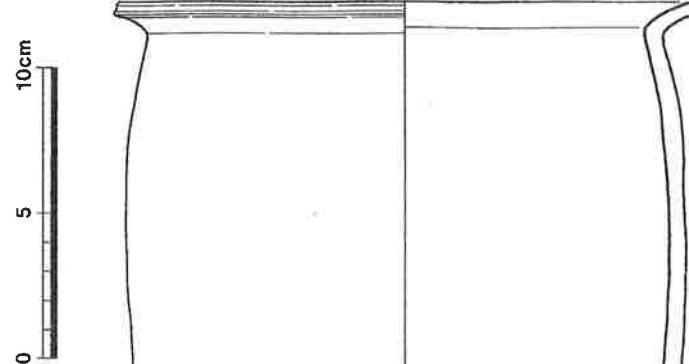
204



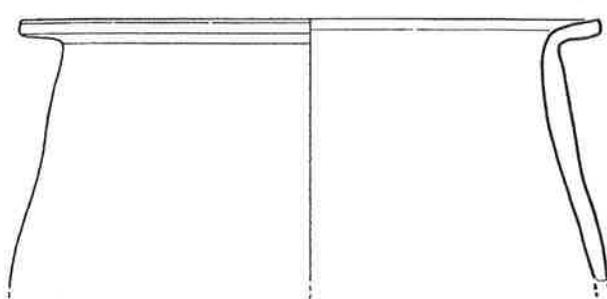
205



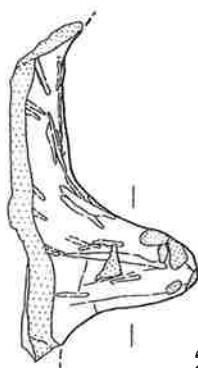
206



207



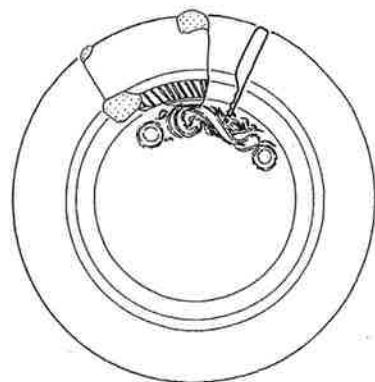
208



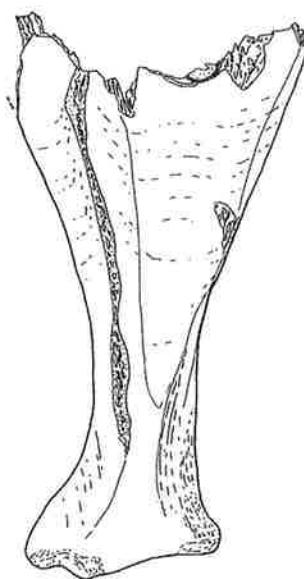
209



210



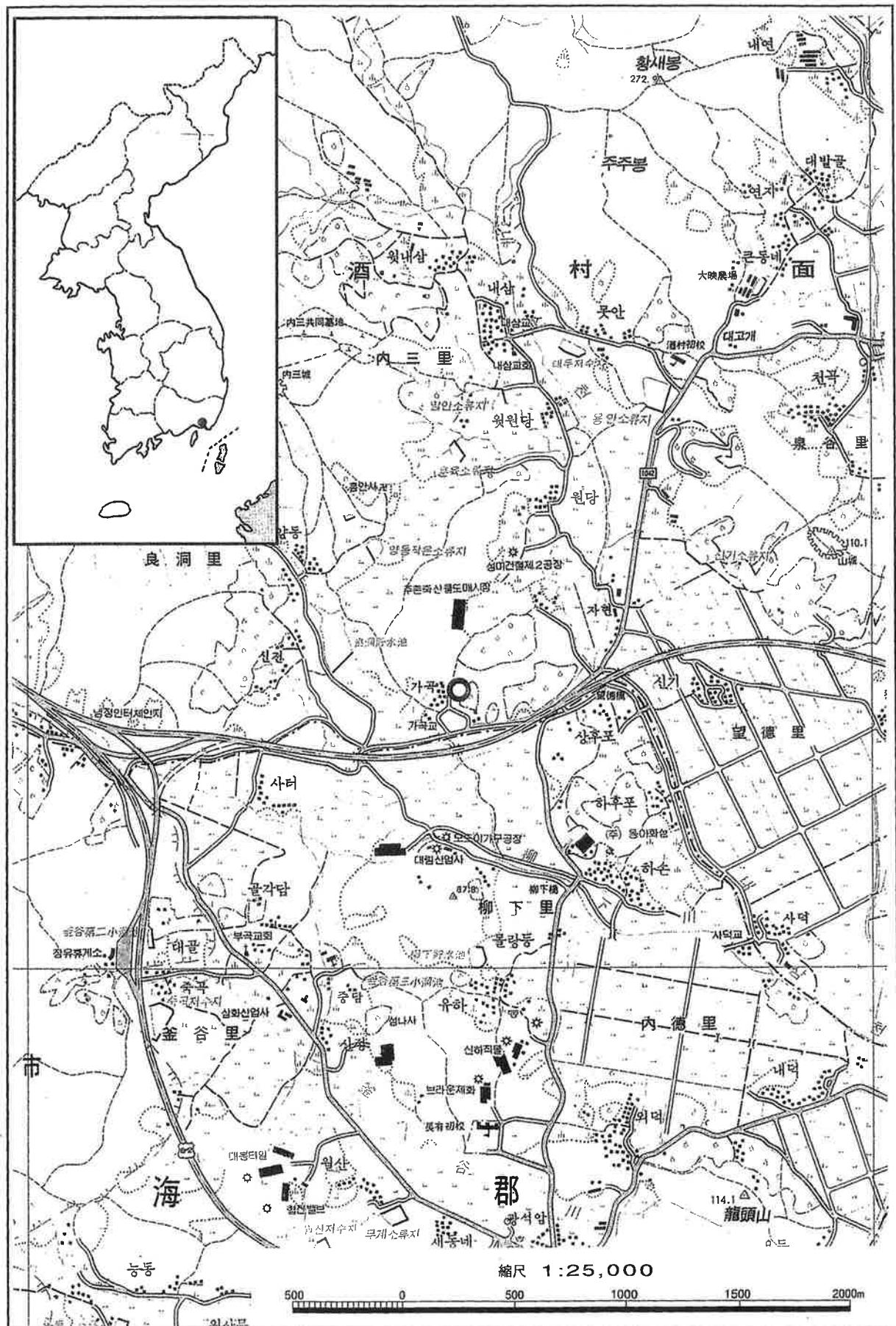
211



212

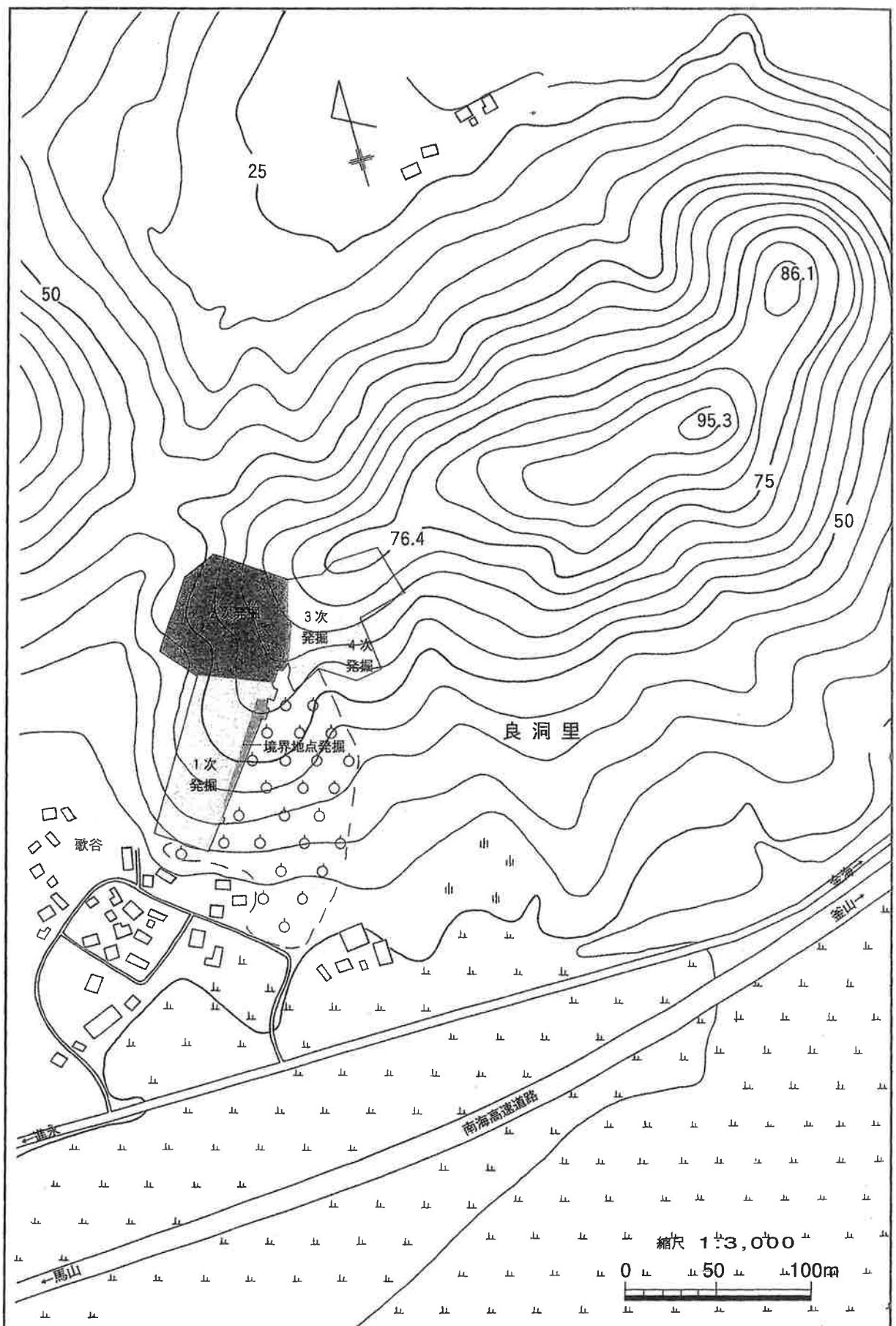
0 5 10cm

11층 출토유물 (1/3, 209~212 : 1/2)



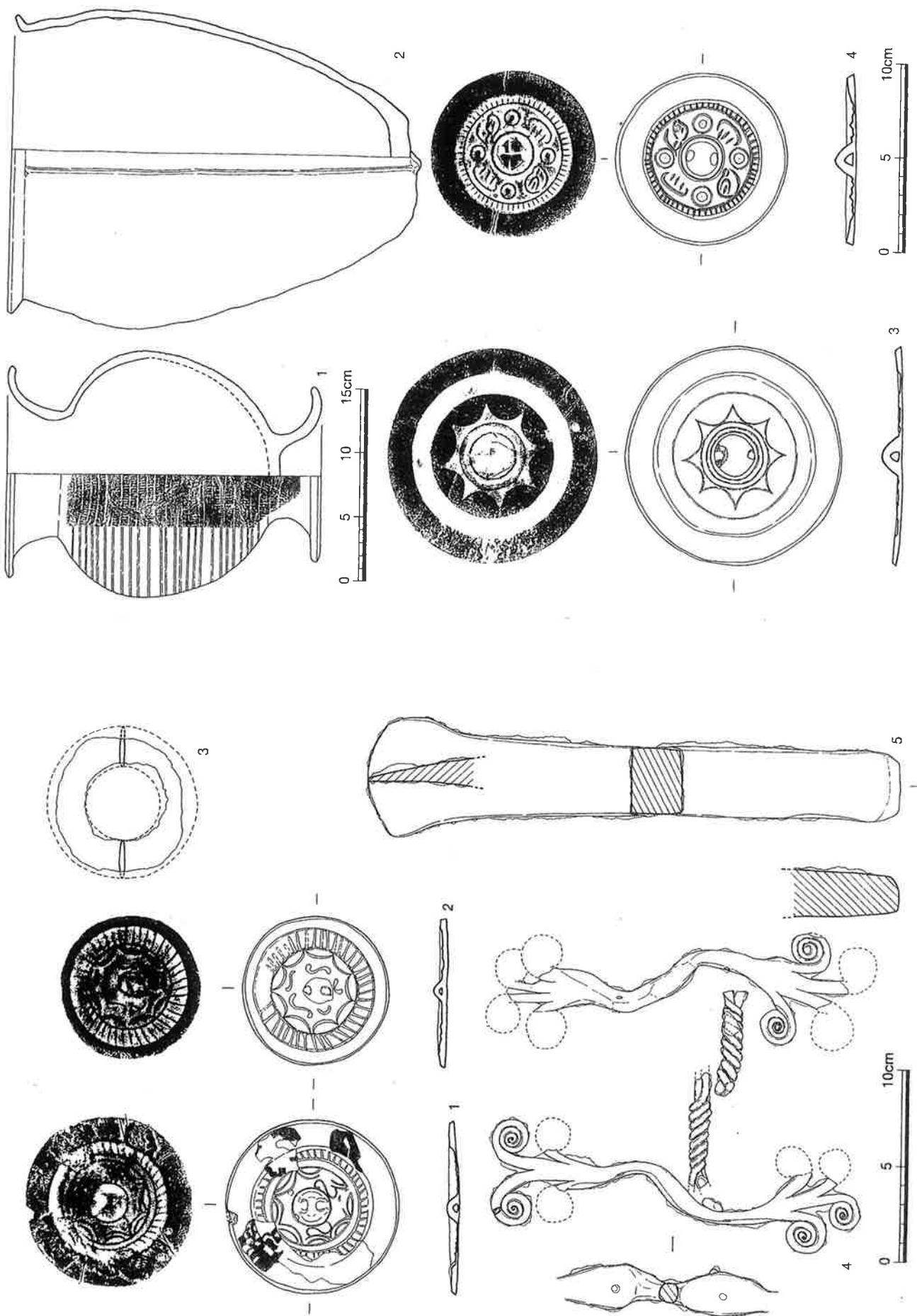
遺跡の位置図（○印）

林孝澤・郭東哲, 2000 『金海良洞里古墳文化』(日本語版)
同上



遺跡の地形図

第162号 出土遺物

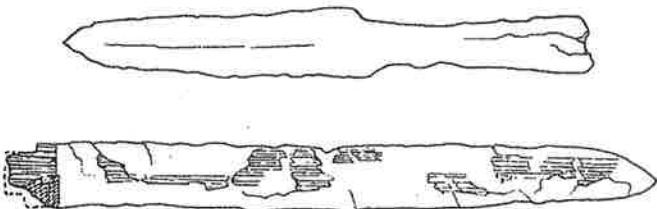
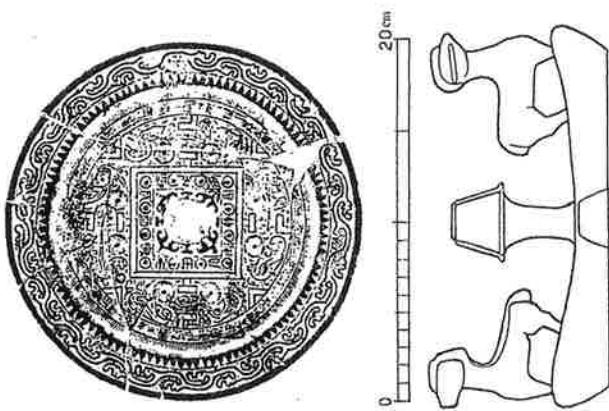


第162号 出土遺物

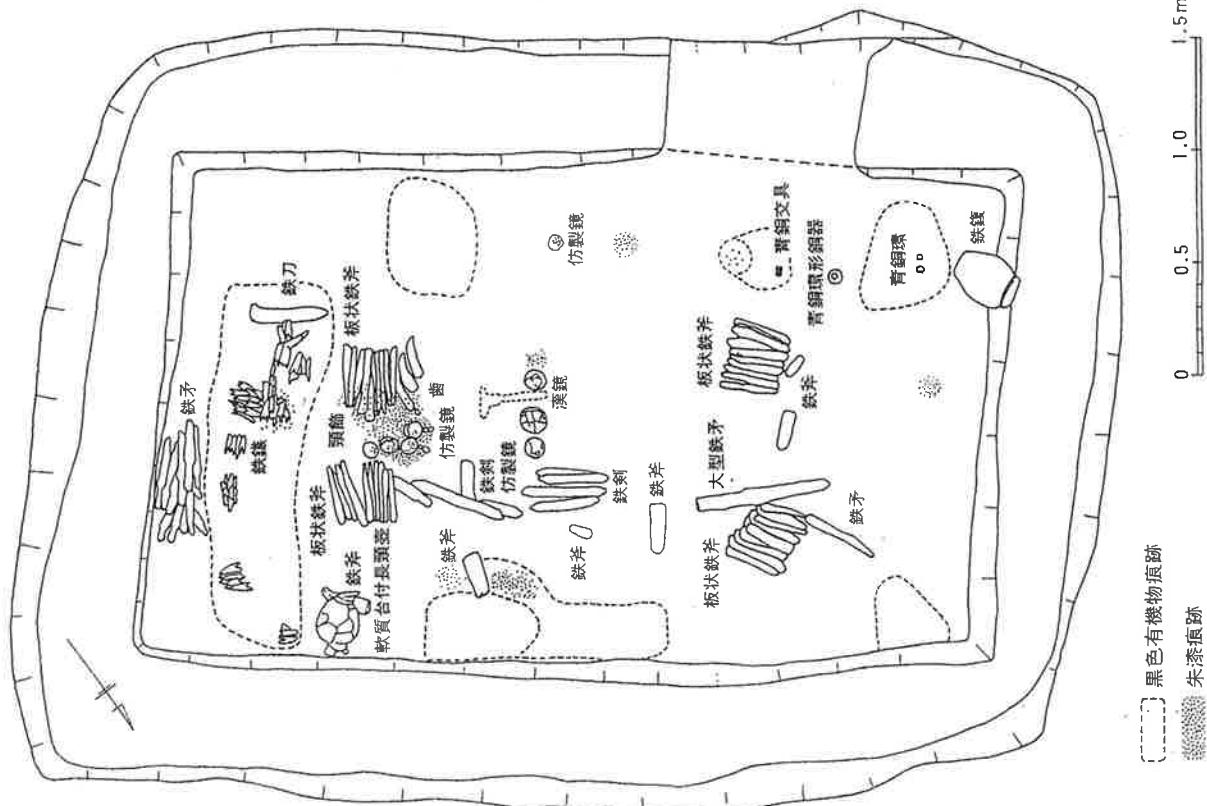
二韓叫 青銅印발견



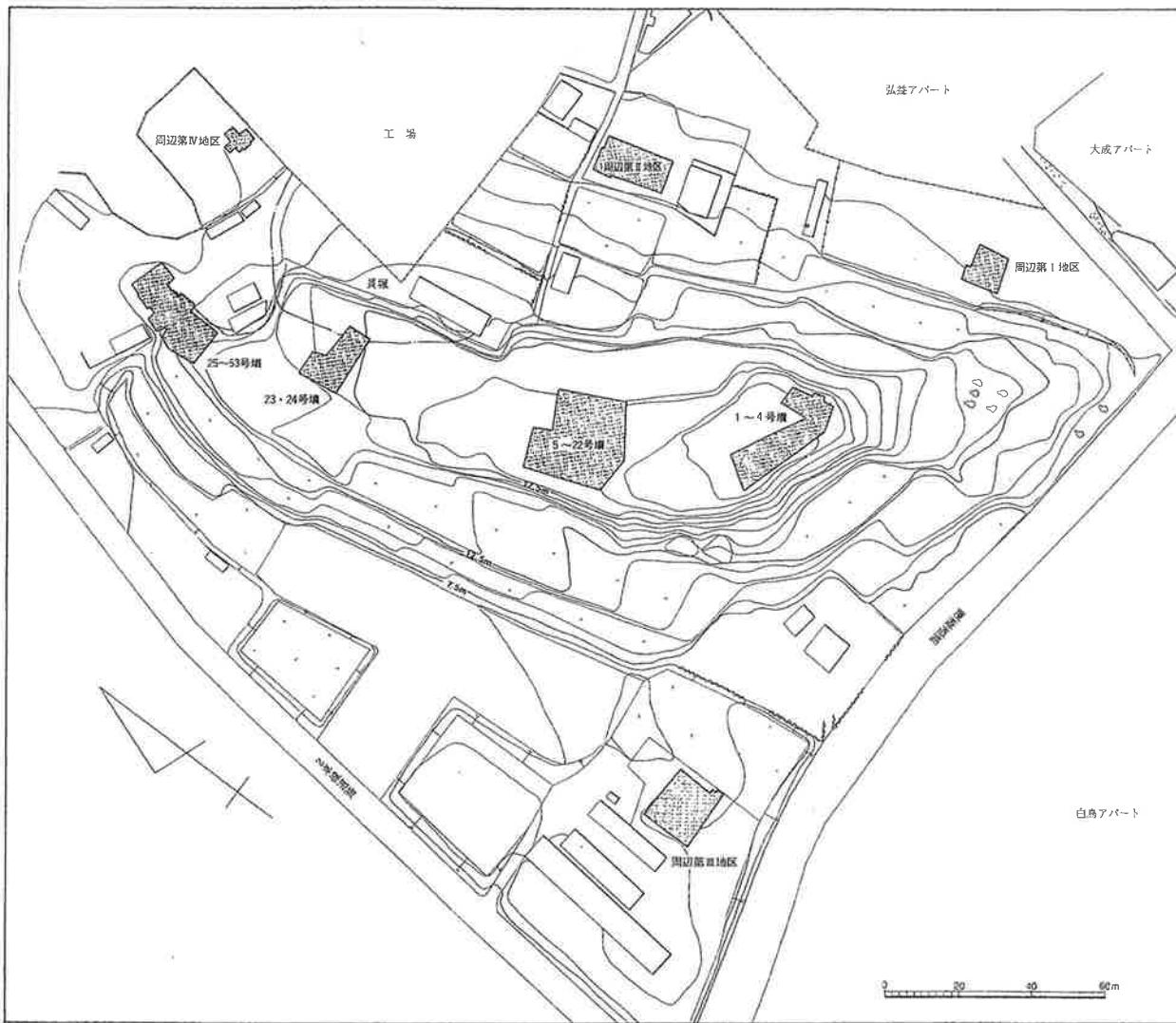
◆ 「國會修憲」 6 차
제3회으로 재개전 도장이 끝난다.



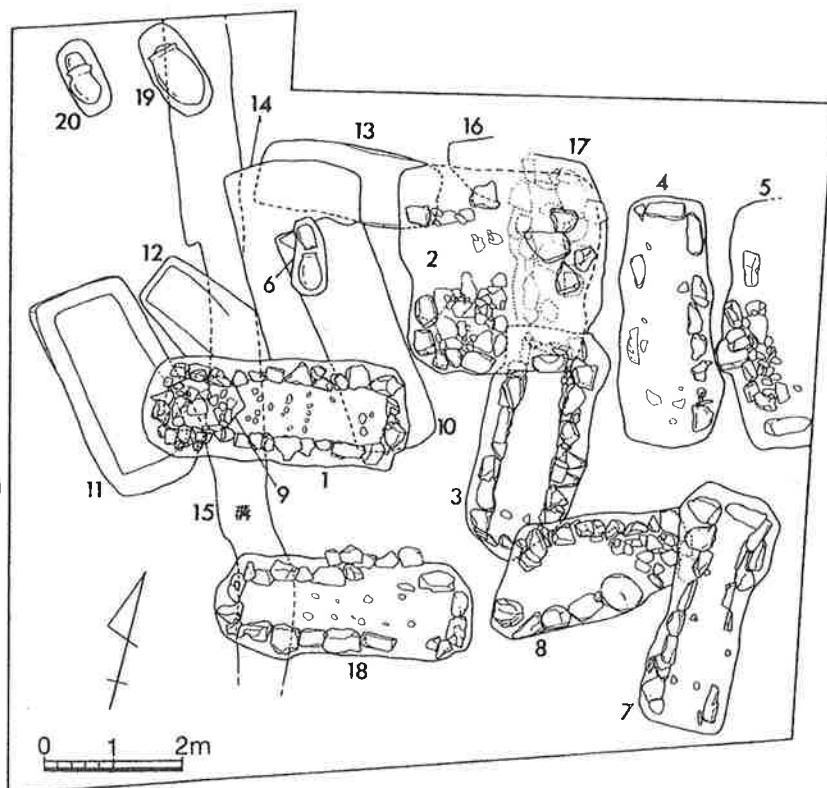
金溪是洞里先生（《文林》56—3号）



金海良洞第182号王壤木律美則因

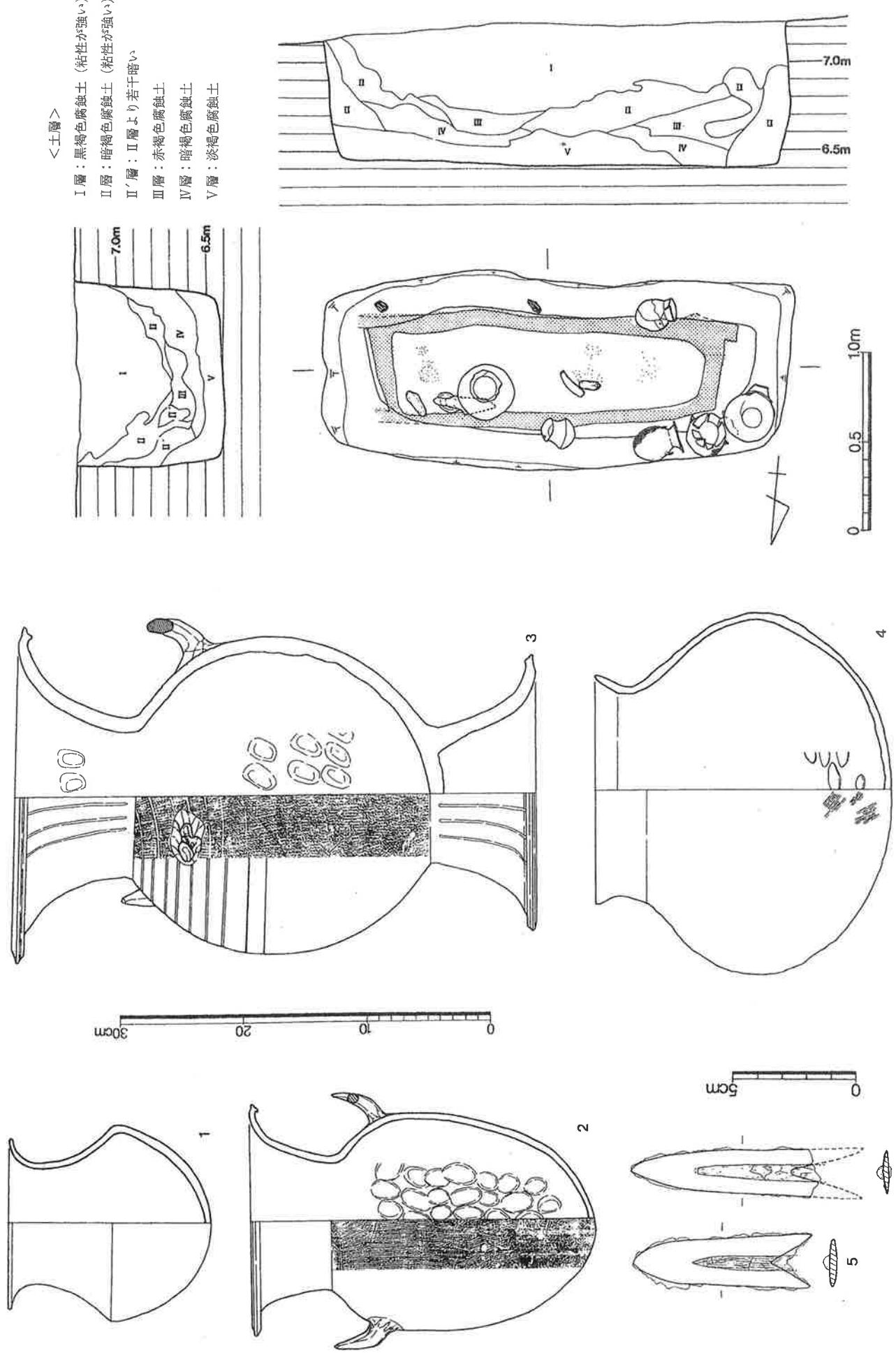


金海大成洞古墳群測量図（縮尺 1/1,200）



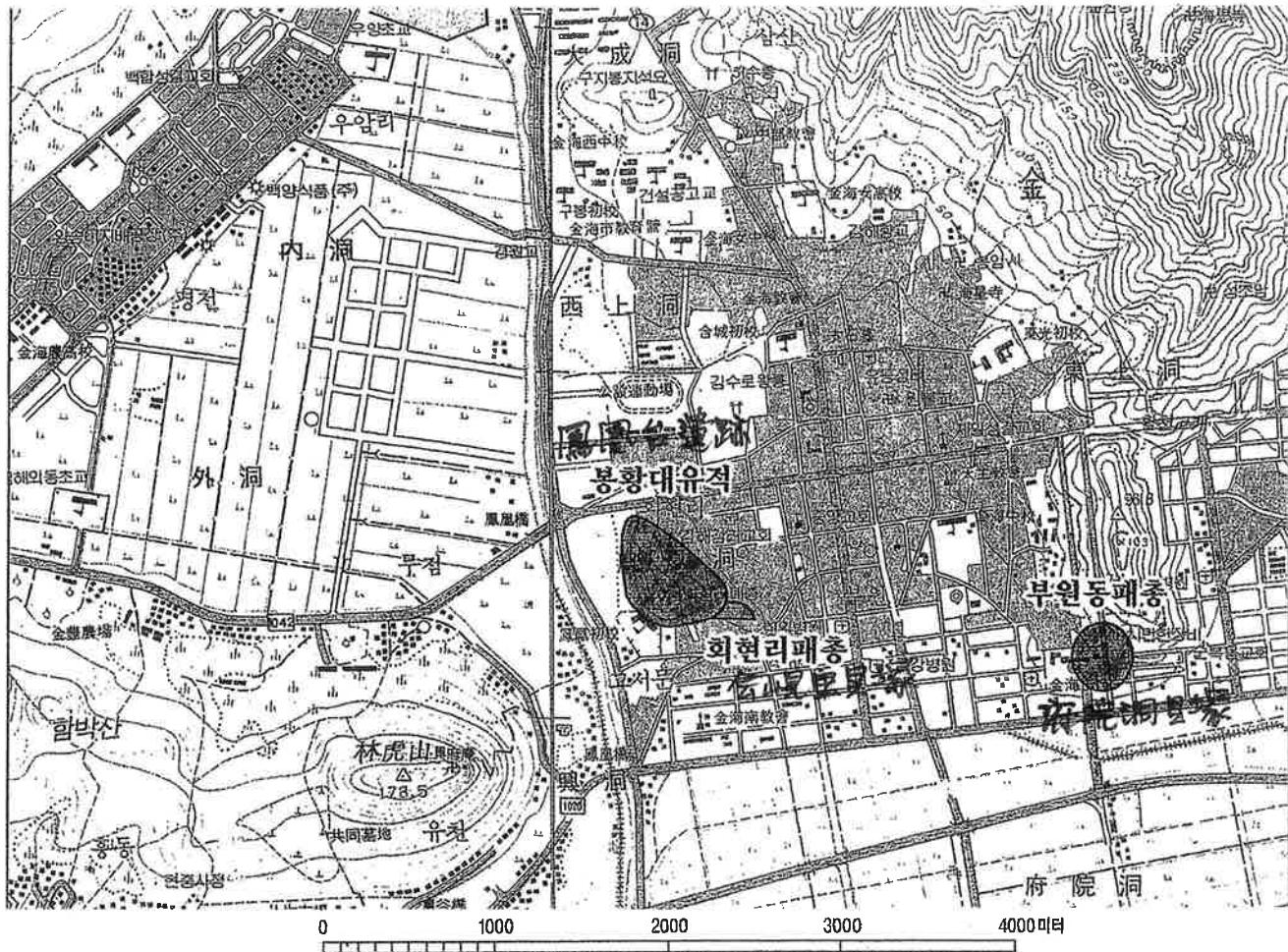
申前文撤。金率佑、2000
『金海大成洞古墳群 I
—概報—』『慶星大學校
博物館 研究叢書』(日本語版)
第4輯

周辺第I地区遺構分布図



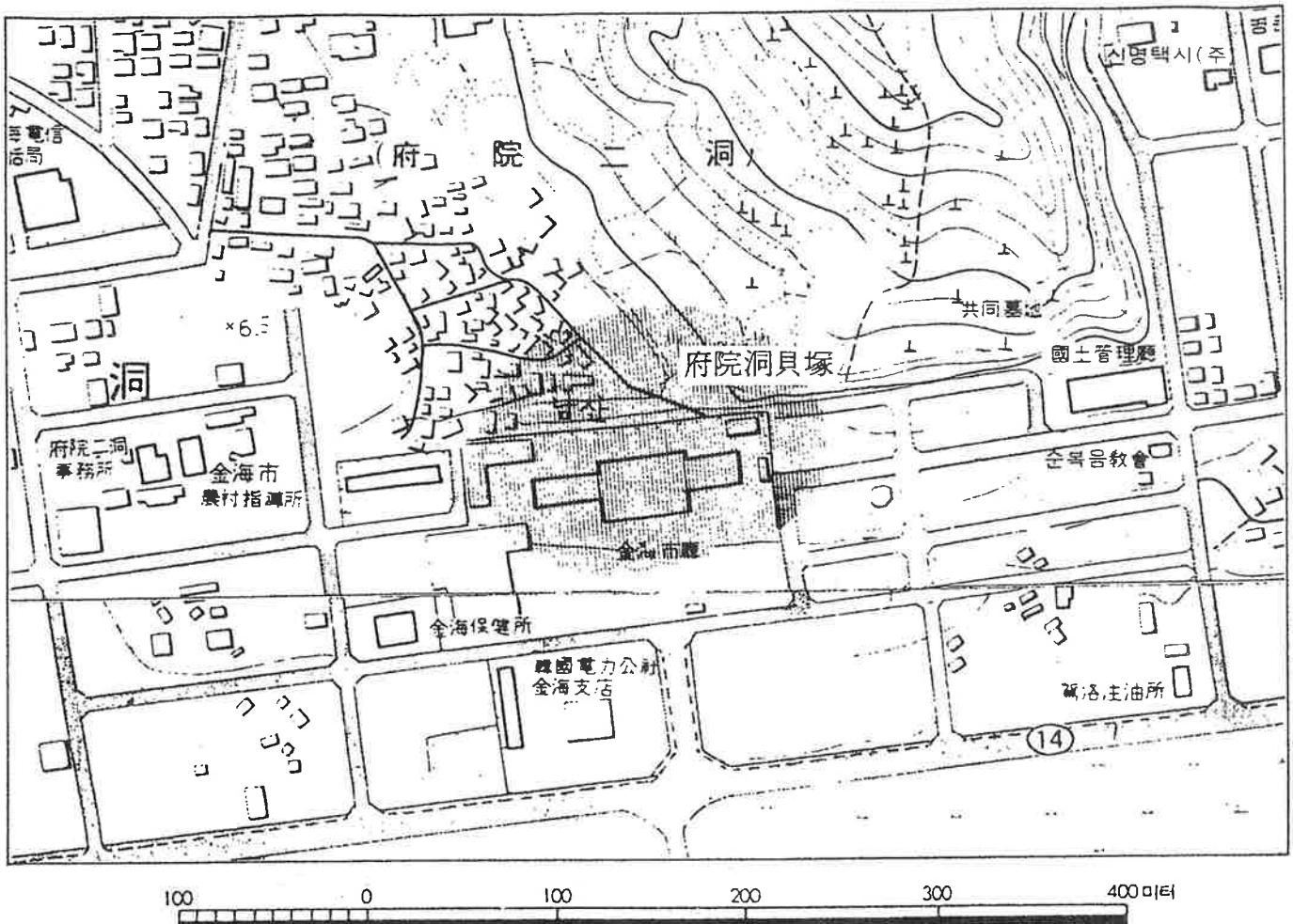
周辺第1地区13号墳実測図（縮尺1/30）

周辺第1地区13号墳出土遺物（縮尺1～4：1/4、5・6：1/2）

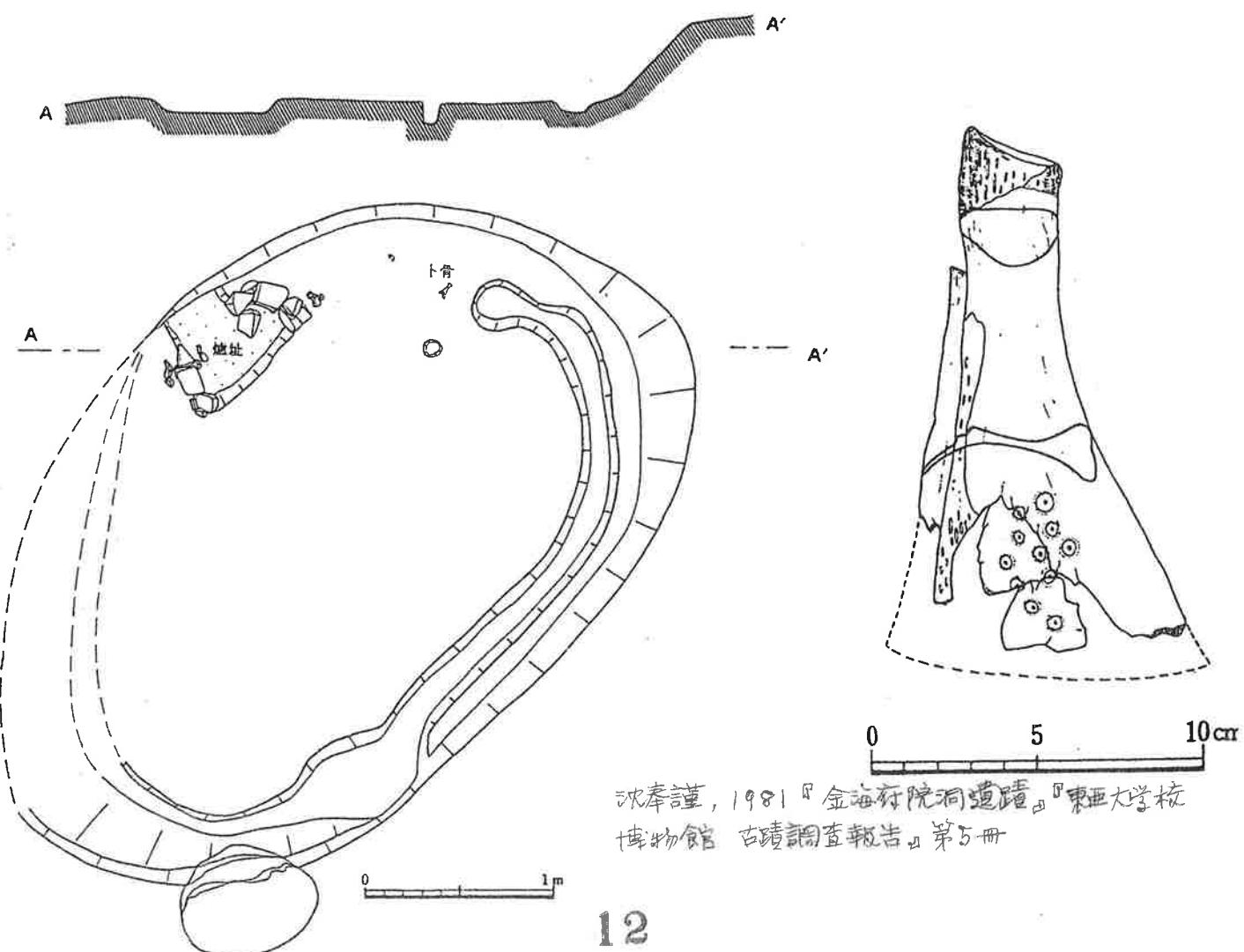


김해 회현리폐총 및 봉황대의 폐총범위 (1/1,500) 金海会山冕里貝塚及鳳凰臺의貝塚範圍

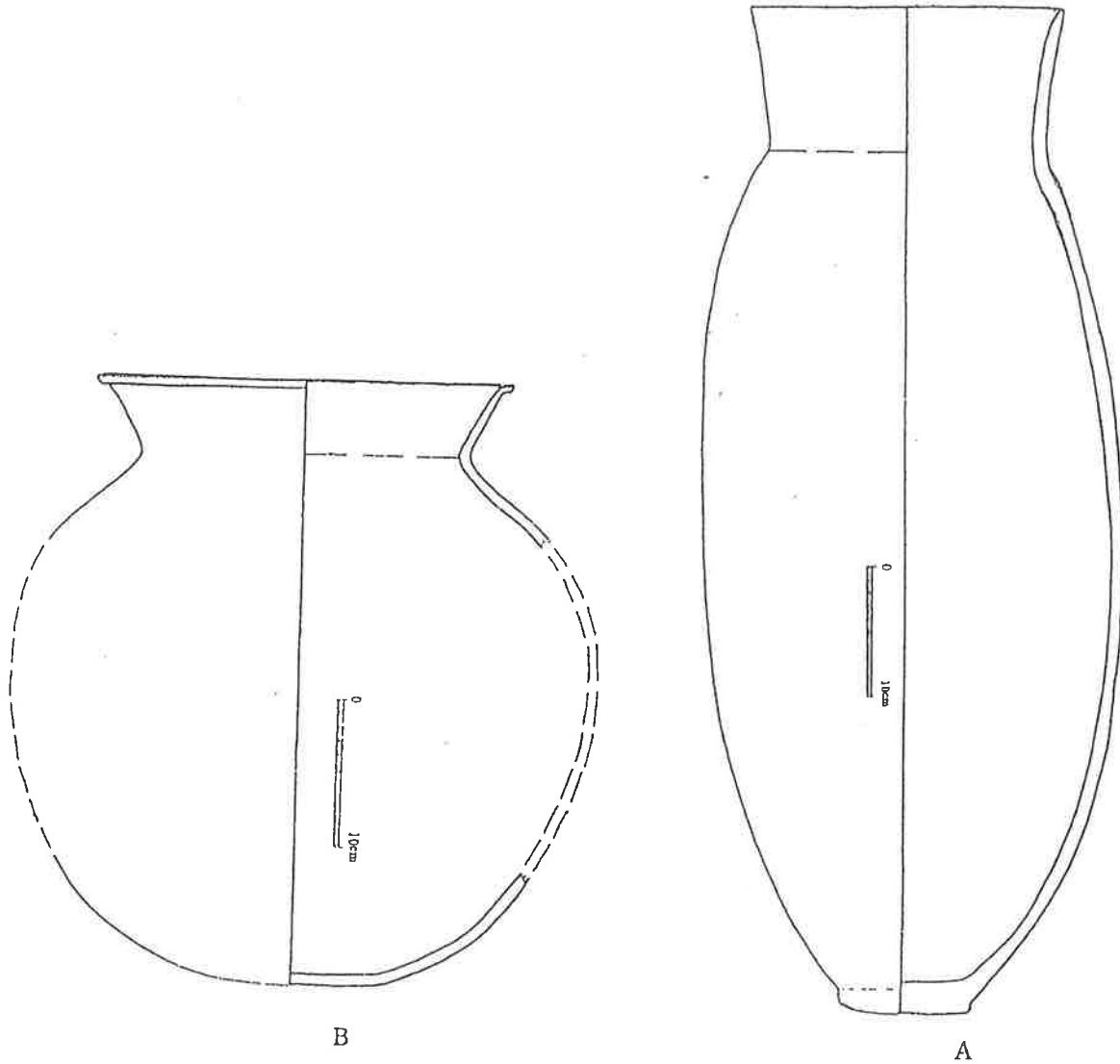
林志暉・宋楨植・千羨幸, 2002『金海 会峴里貝塚 - 転写層 Ⅱの試掘調査 報告書一』
『釜山大學校 人文大學 考古學科 學術叢書』第1輯



府院洞貝塚 位置圖

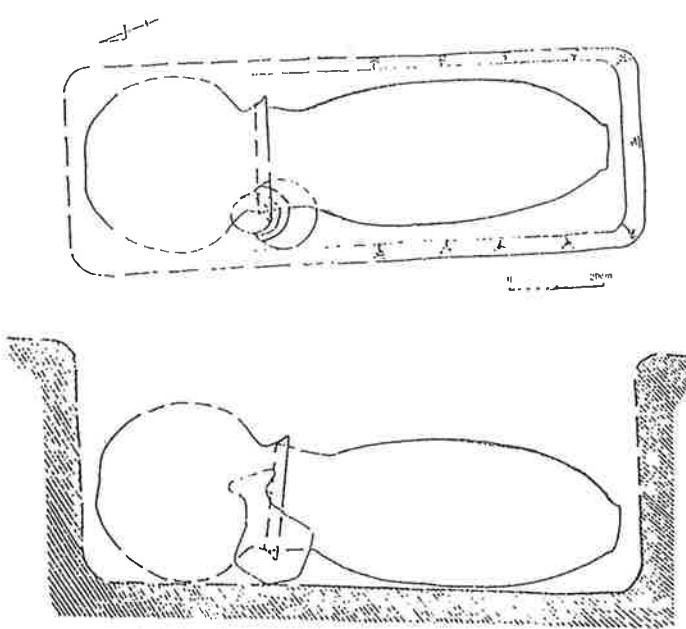




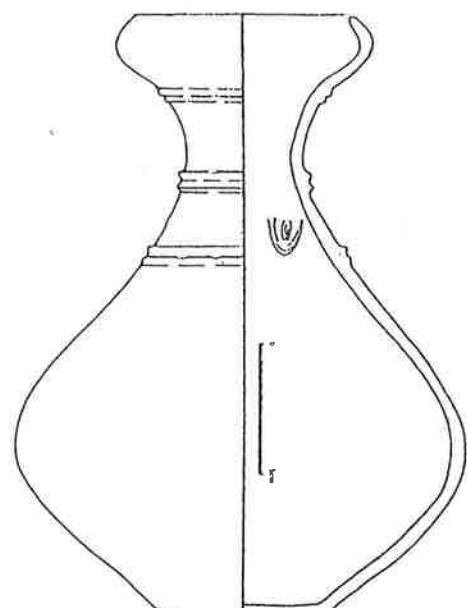


B

A

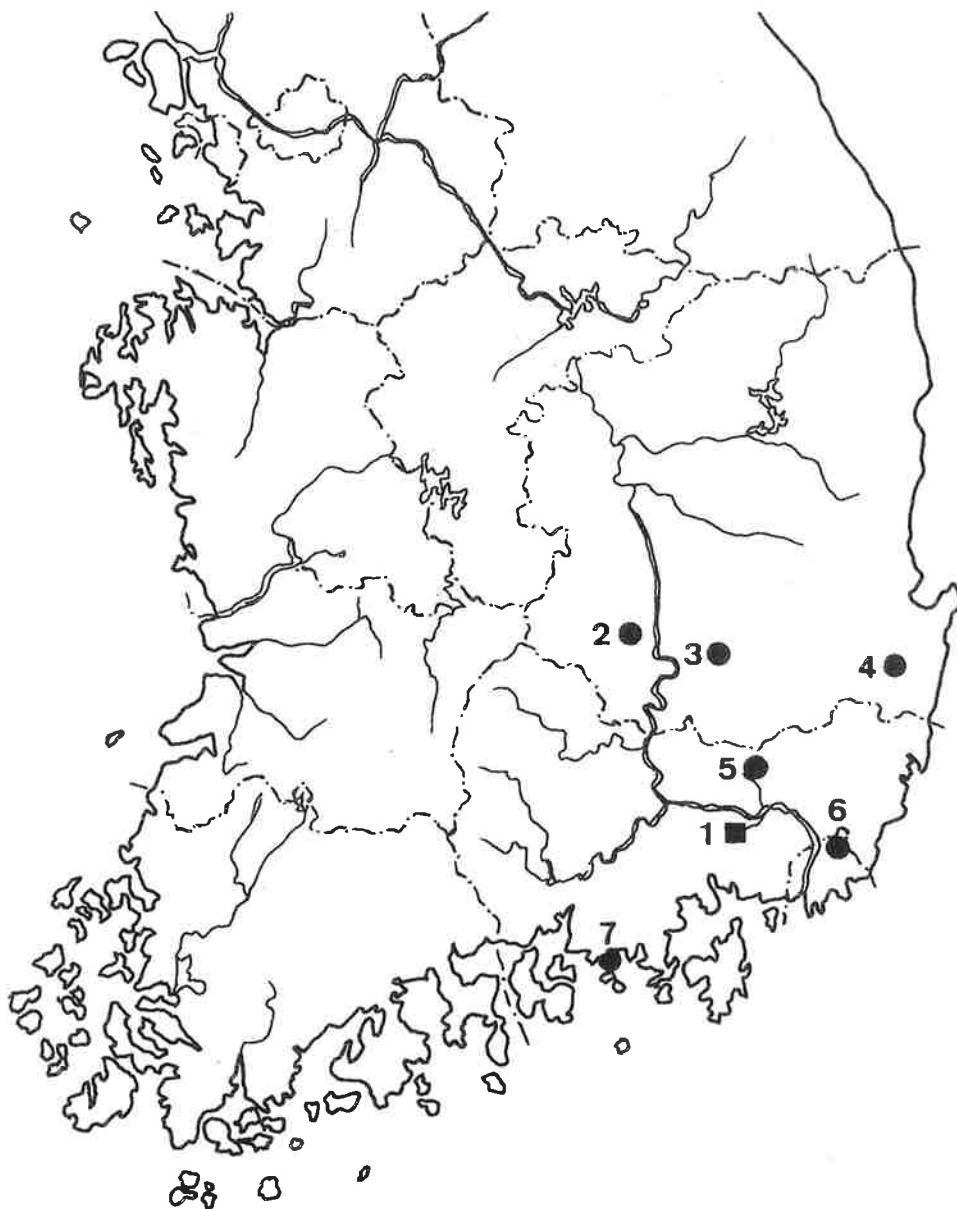


金海池内洞甕棺墓推定配置圖



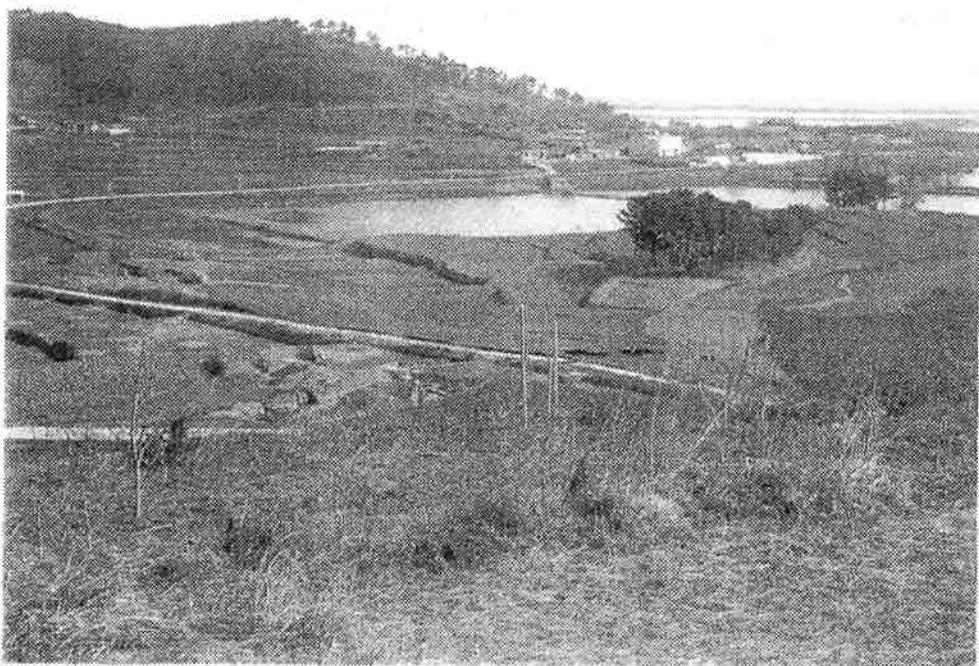
C

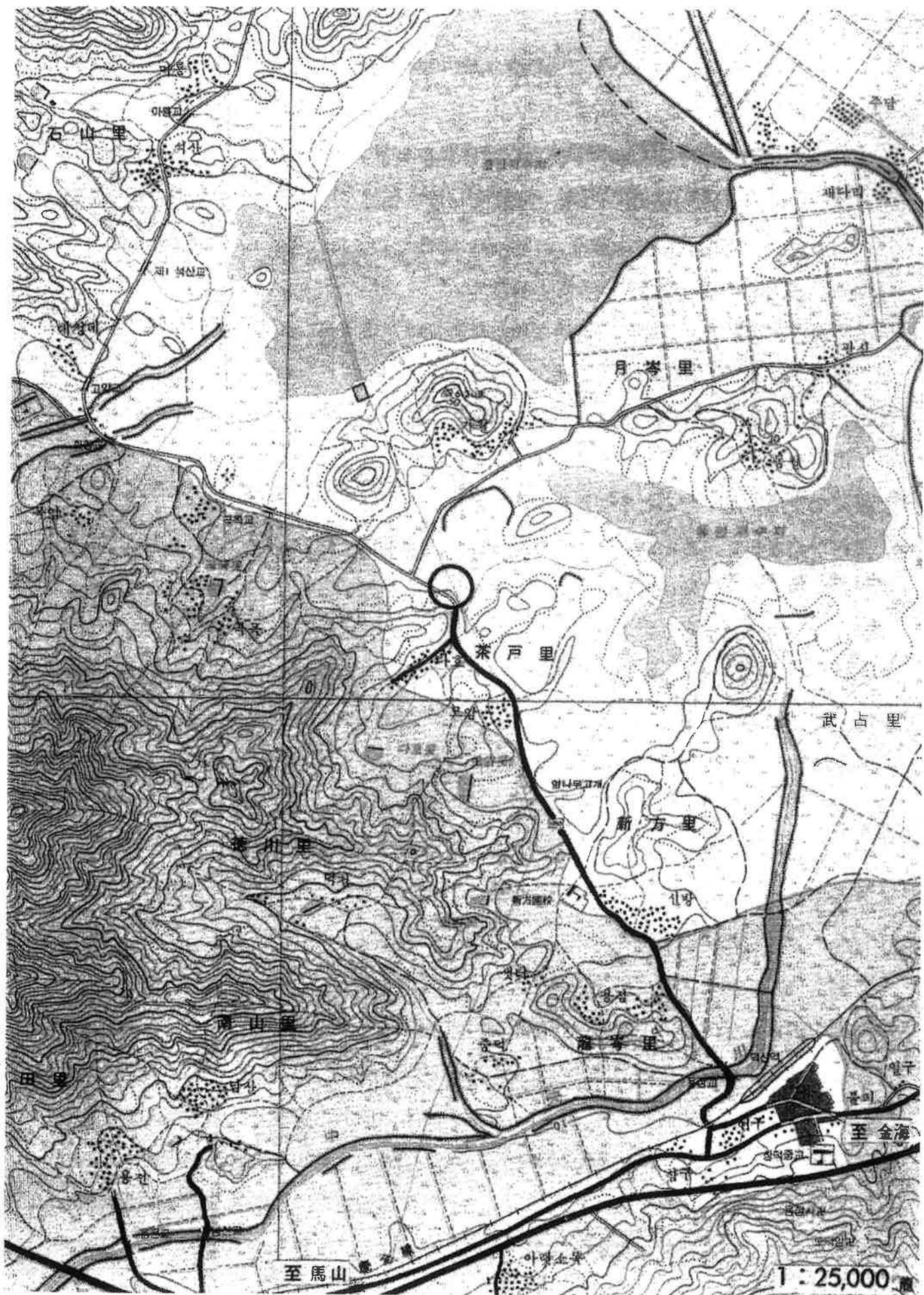
『韓國考古學報』12, 1982. 54



1. 義昌茶戸里遺跡
2. 星州礼山洞遺跡
3. 大邱八達洞遺跡
4. 慶州朝陽洞遺跡
5. 密陽内二洞遺跡
6. 釜山久瑞洞遺跡
7. 固城松川里遺跡

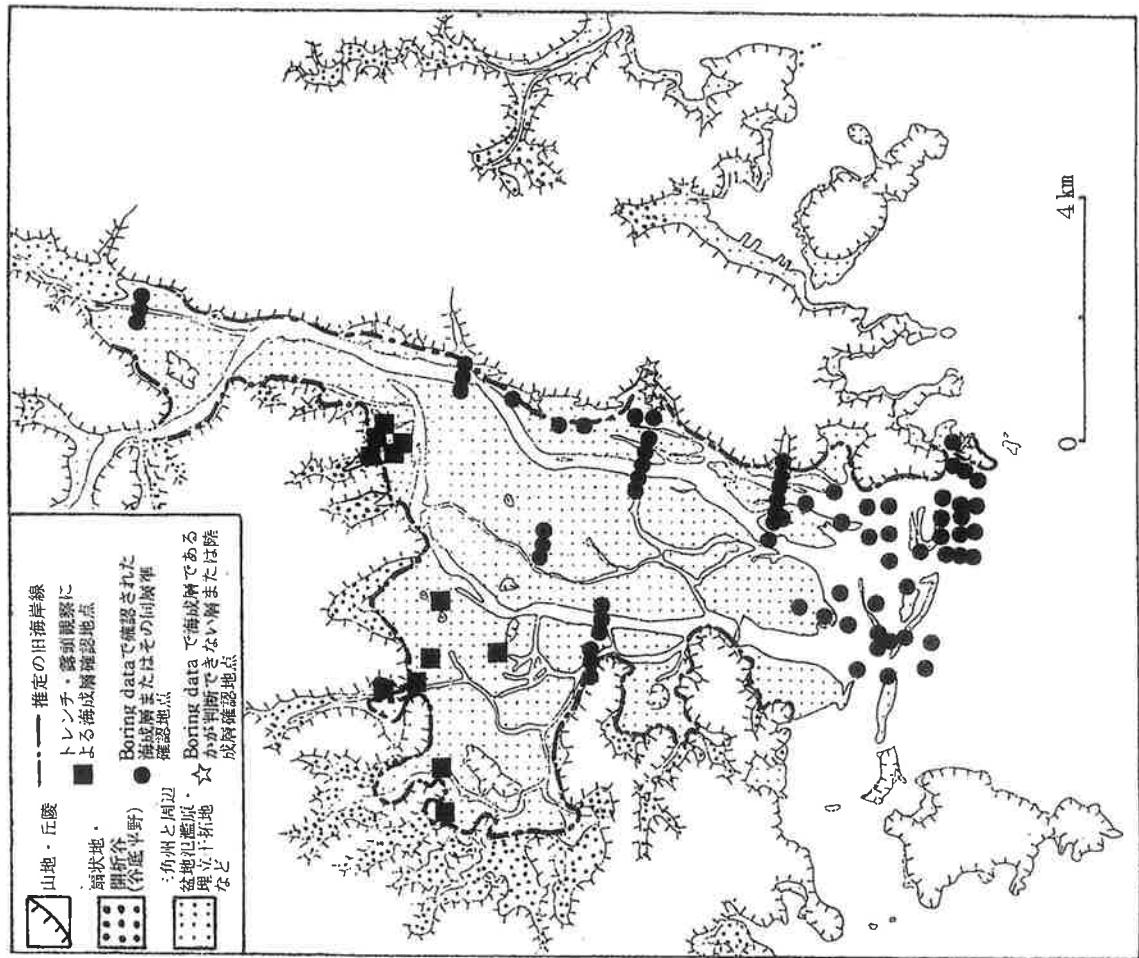
茶戸里遺跡と周辺の主要原三国時代前期遺跡位置図



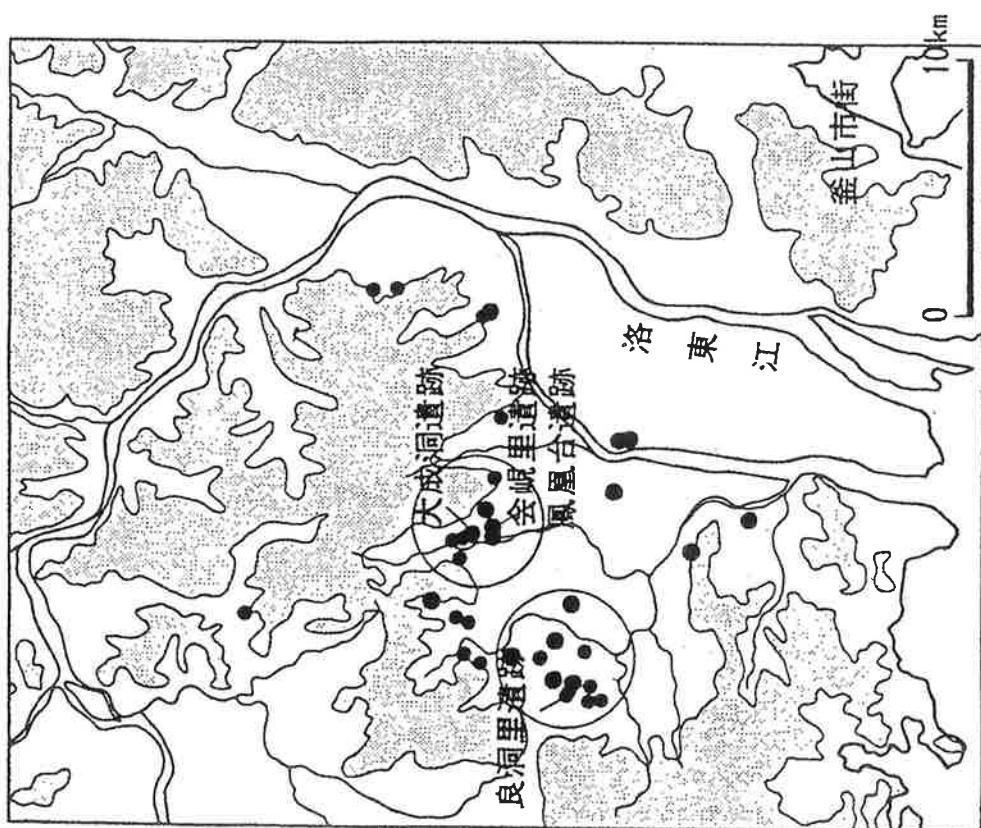


遺跡位置図

李健虎·李榮熙·尹光鎮·申大坤(西宮 五監訳), 1990『義昌茶戶里遺跡挖掘進展報告』日本語篇 1-1



金海地域における海成層の分布と推定の旧海岸線
『洛東江河口金海地域の環境と漁港文化』古文化叢書第31集、カガク文化研究会
著 鍛木・郭金鐘吉（中島道也訳）、1993



金海地区の遺跡(原三时期前後)分布

『同上』歴史手稿 20-6, 1992.5.9

韓国の貝塚 発掘に協力

松井 章

この数年、台湾中央研究院歴史・考古学研究所、中国浙江考古学研究所、ロンドン科学カズミー極東文部、アメリカ合衆国オレゴン州サンクン、ビレッジ遺跡調査プロジェクトなど、科学研究費補助金をもとに共同研究を行つてゐる。共同研究と言つても、個人的な友好關係で先方の発掘現場や研究室を訪問し、感じた印象をお話しあい、日本から関係する遺跡や遺物の資料をコピーして送つたりしているだけだが、結構、歓迎されてゐる気がして、地元にとってあらがたいのは、地域を導く時代。文化を異にする遺跡を知ることが、日本の考古学の理解に貴重な情報となることだ。

釜山西隣・金海市 弥生文化への影響に驚き

泥を二ミリ、二ミリのブルームを通して、土器、骨片、種子を採集する旨指示した。

発掘作業は軌道に乗ったが、馬場は予想以上に深く、地表から九メートル下の地層に達した時には十月になっていた。私は毎月のよきに現地を訪れて、その都度、環考古学の仲間を誘つて炭化物や種子の同定、プラントオーパール分析、花粉分析、年代測定などの試料採取と分析を進めた。

歴史、考古学、言語研究分野、韓國浙江省歴史文化研究所、台湾中央研究院考古学研究所、ロシア科学院カズミー極東支部、アメリカ合衆国オレゴン州サンクン・ビレッジ遺跡調査プロジェクトなどと、科学的研究費補助金をもとに共同研究を行っている。共同研究と言つても、個人的な友好關係で先方の発掘現場や研究室を訪問し、感じた印象をお話しし、日本から関係する遺跡や遺物の資料をコピーして送つたりしているだけだが、結構、歓迎されている気がする。私にとってありがたいのは、地域を離れて時代。文化を異にする遺跡を知ることと、日本の考古學の理解に貴重な情報となることだ。¹⁾ そのひとつ、韓國金海会、順昌里貢寮を紹介しよう。この貢寮は、釜山市の西隣の金海市に位置する弥生時代に相当する古墳で、戰前に京都大学の浜田青霞²⁾と海原未治³⁾によ

発掘現場に立ってみると、すでに深さ四メートル、幅一メートルの試掘溝（トレンチ）が、長さ十メートルほど掘られ、三月末から現地に通うことになった。

遺跡・遺物の情報交換

骨角器も三千三百点をこえ、
貝塚の少ない韓国では最大の

のサンクン・プレッジ遺跡との発掘を、ネイティブの人々と共に実施する。北西海岸で長(まつい・あきら)=奈良文化財研究所・環境考古学研究室

骨角器も千三百点をこえ、
貝塚の少ない韓国では最大の

韓国以外でも、私たちは今ることもなかったのに、と震ふ。年
年の九月から米国オレゴン州愈々気がする。

鉄辛文抄

の朝鮮、対馬海峡というのは、

体の整理に通つてゐるが、膨大な出土品をひとつずつ手に取つて、これにつづいて、こんなふうに、日本の旧石器研究を行ひはじめた。

か、また洋野海峡の西側には文化、文物の障壁は認められないのに、韓国と日本の間

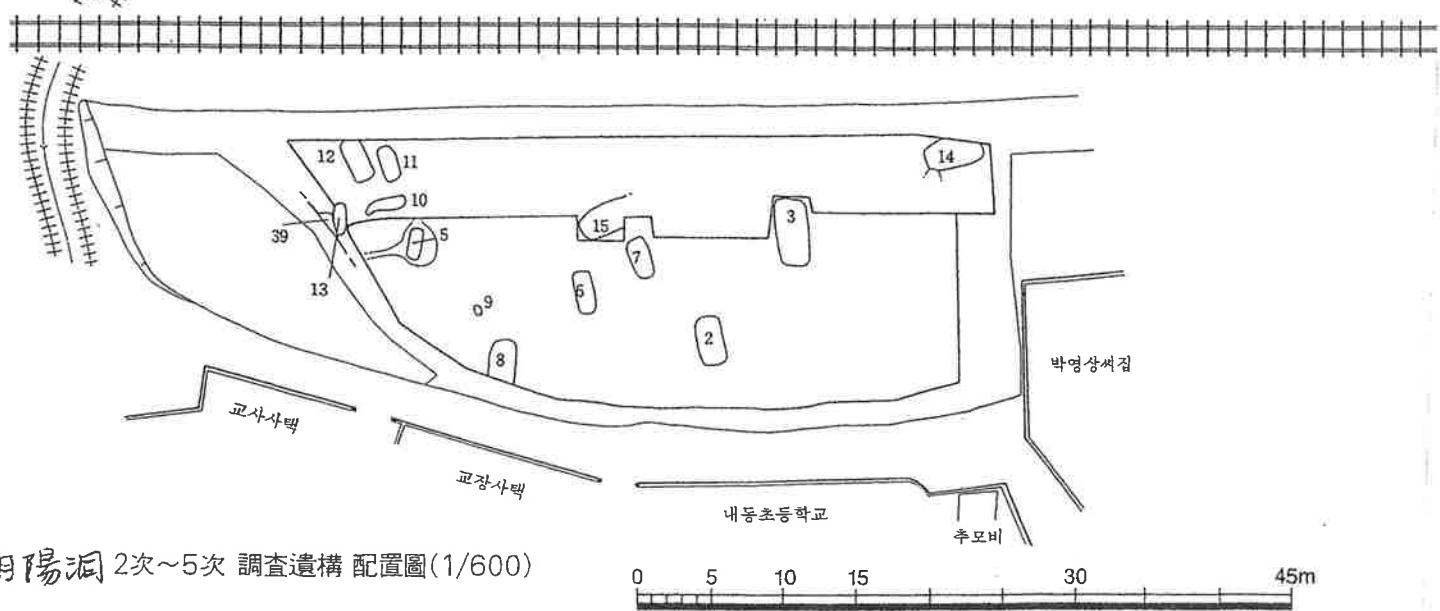
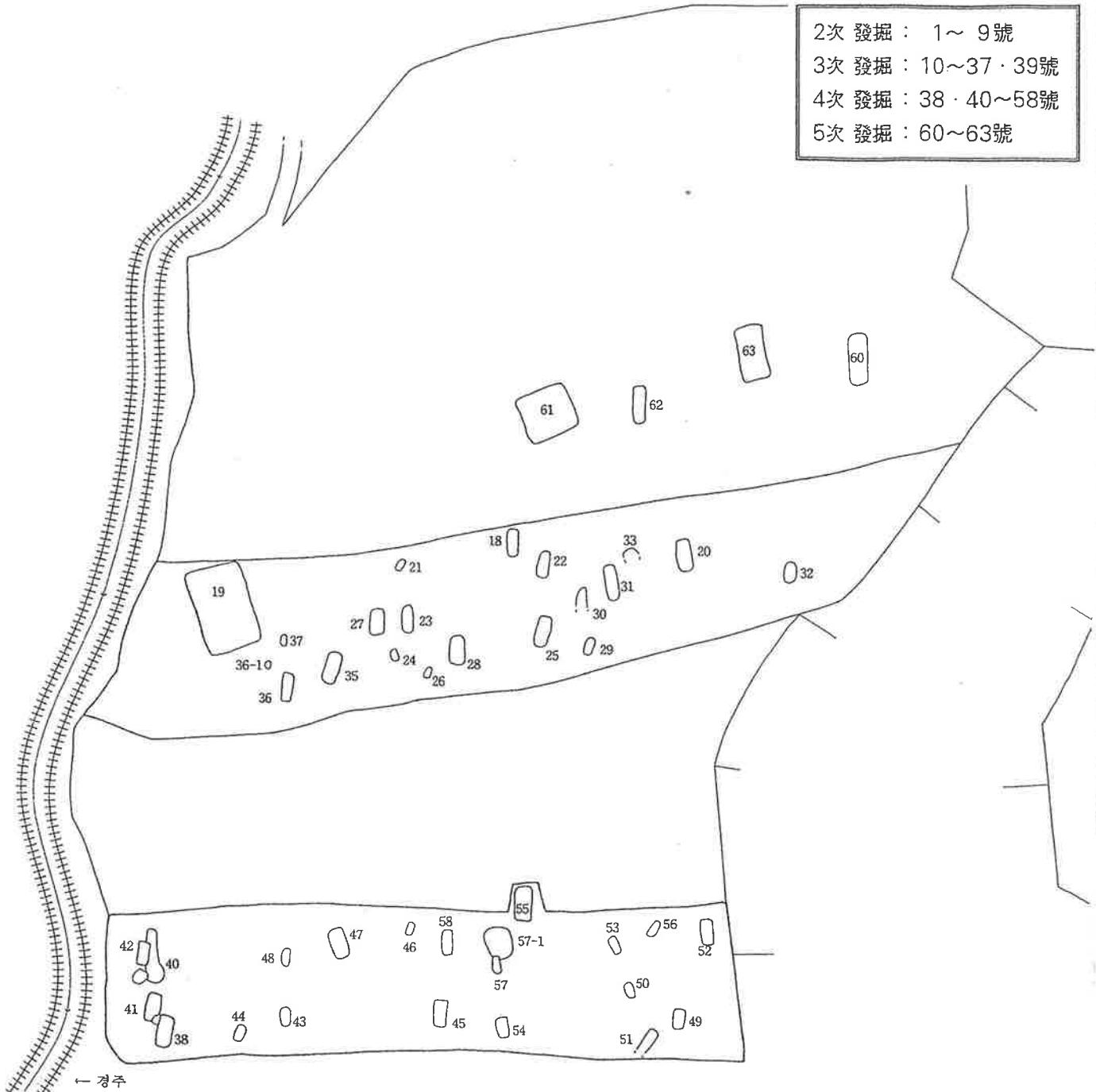
た金海貝塚の影響が窺かれた。私たちも今年になつても、いサケ・マス類の出土状況の実態について、日本との比較

あたらなごのいたとして馬や牛を飼っていたのだろう

装飾的な弓、箭の部品、卜骨などを見て、弥生文化に及ぼしの新石器時代の影響で、日本

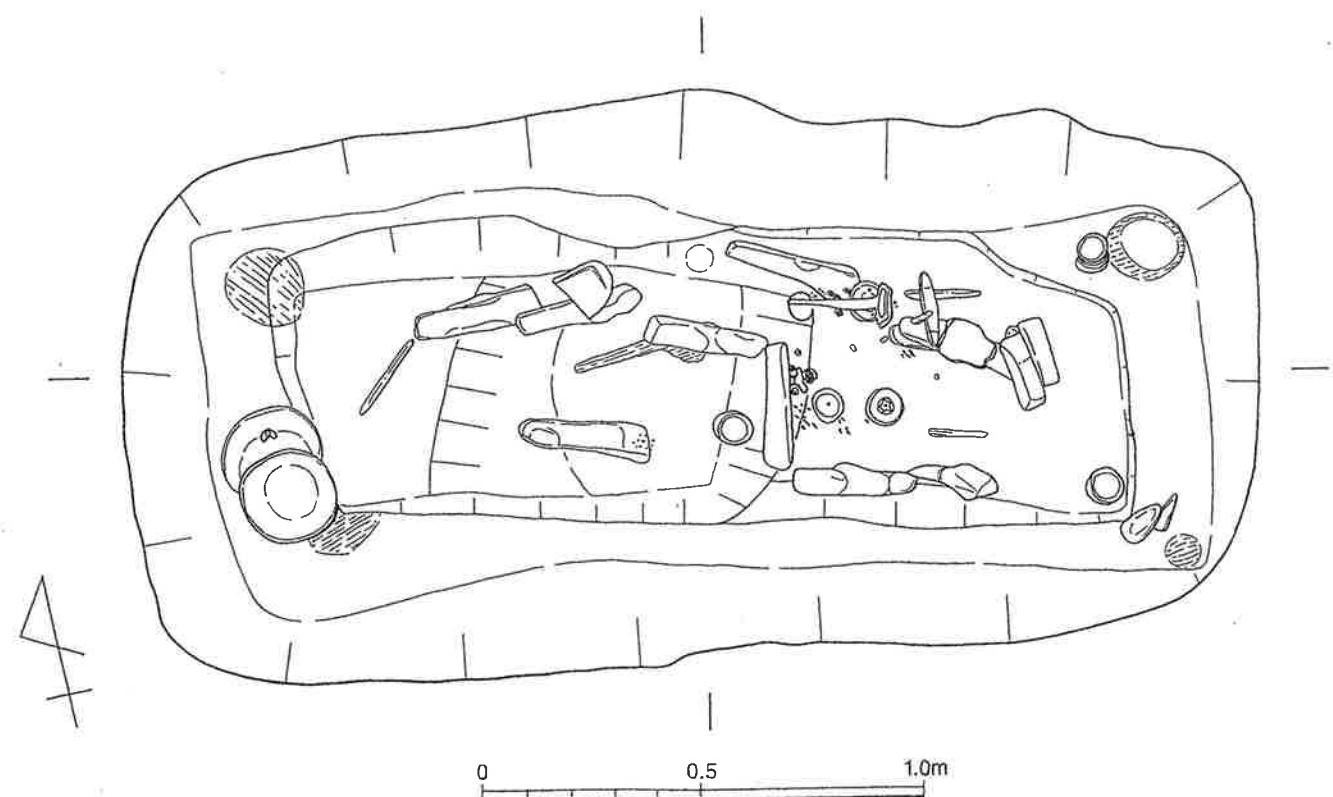
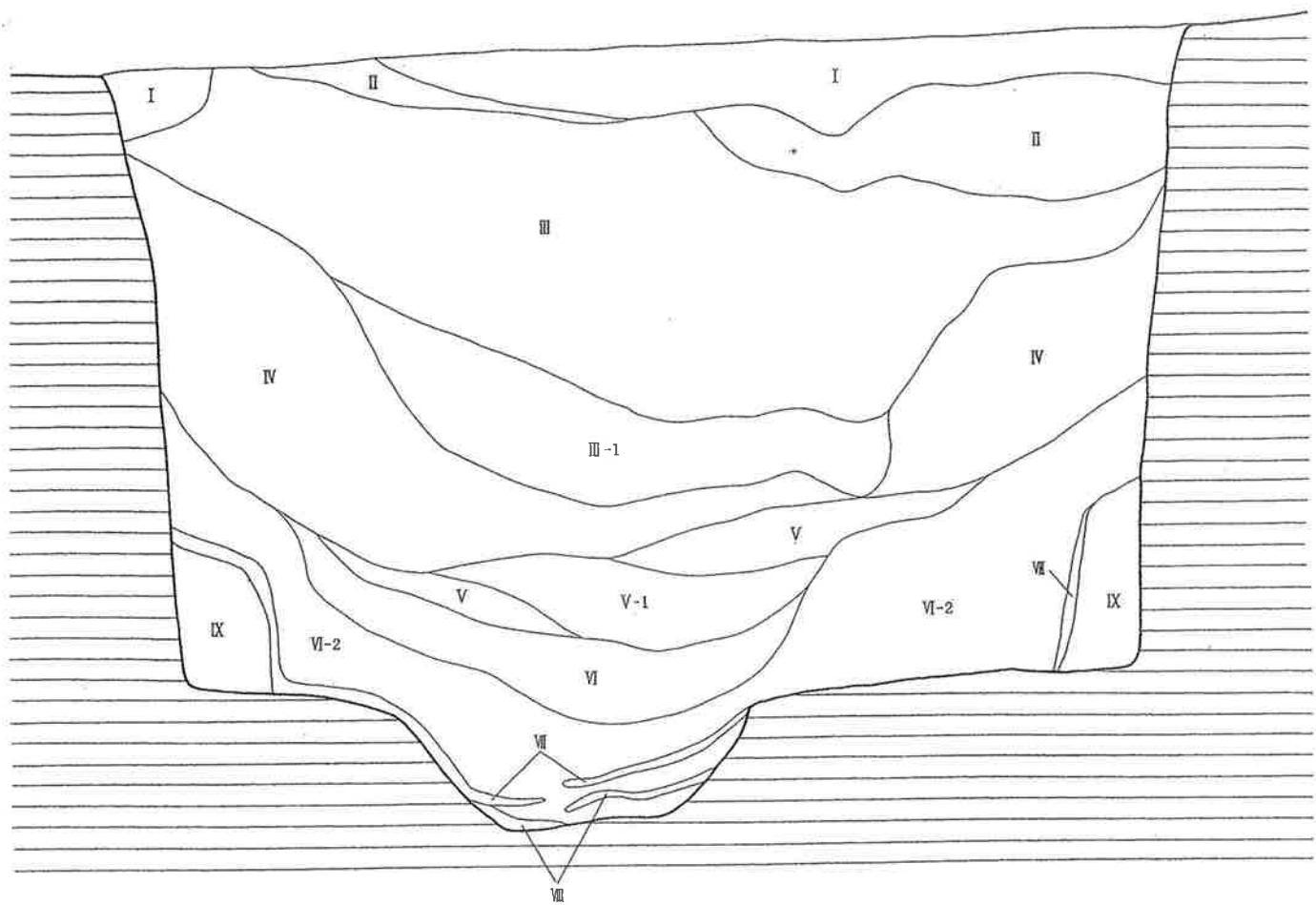
ように、日本の弥生時代には出土量となつた。驚いたのは牛馬がないなつたと記載され、弥生時代に出現する、新しい骨角器のすべてが、この地域にあるのは五百紀以降と言うのが骨董だからだ。馬具を見刻離、鹿角製の「工具の柄」初めて「ハングリ」と語った狩猟用の「弓矢」が見つかったという。ロシアのウラジオストックの「アーチーク・ミハイル」で、この比較研究のための狩猟穴が見つかったといふ。この時代の狩猟穴は、その大きさから、馬車も出入りできるほどである。骨董の中でも、最も貴重なのが「馬具」である。馬具を見刻離、鹿角製の「工具の柄」

2次 發掘：1～9號
 3次 發掘：10～37・39號
 4次 發掘：38・40～58號
 5次 發掘：60～63號



朝陽洞 2次～5次 調査遺構 配置圖(1/600)

鄭聖圭(主編), 2003 『慶州 朝陽洞遺蹟』 一書是一『國立慶州博物館 學術調查報告』第13冊



朝陽洞 38號墓



①

②



0 5 10cm



③

④

朝陽洞 38號墓 出土 銅鏡